

「都市の緑 3 表彰」の受賞者決定および 2027 年国際園芸博覧会に向けた特別企画の実施について

1. 「都市の緑3表彰」受賞者の決定

一般財団法人第一生命財団(理事長:渡邊光一郎、以下「当財団」)が支援する「都市の緑3表彰」(緑の環境プラン大賞、緑の都市賞、緑化技術コンクール)の受賞者が別紙のとおり決定しました。

(1) 第 36 回「緑の環境プラン大賞」

(主催:公益財団法人都市緑化機構、一般財団法人第一生命財団)

緑豊かな都市環境で育まれる人と自然とのふれあいやコミュニティ醸成等の実現に資する緑化プランについて、優秀作を表彰するとともに、そのプラン実現のために緑化整備費を助成するものです。

(2) 第 45 回「緑の都市賞」

(主催:公益財団法人都市緑化機構、特別協賛:一般財団法人第一生命財団)

緑豊かな都市づくりの推進を目的に、緑を用いた環境の改善、景観の向上、地域社会の活性化等に先進的かつ意欲的に取り組み、良好な成果を挙げている市民団体、企業、地方公共団体等を表彰するものです。

(3) 第 24 回「緑化技術コンクール」

(主催:公益財団法人都市緑化機構、特別協賛:一般財団法人第一生命財団)

気候変動への適応、2030 年ネイチャーポジティブの実現、官民連携による居心地の良い空間づくりやにぎわい創出等の実現に資する緑化技術について、積極的に取り組み、優れた成果を挙げている民間企業、公共団体、個人等を表彰するものです。

当財団は、社会貢献取組方針の中心テーマの一つである「環境の保全」に資するものとして、都市緑化の推進や景観の向上、地域社会の活性化などと、それらを通じた地域コミュニティの形成等につながる当賞を長年にわたって支援しています。

(別紙1) 第 36 回「緑の環境プラン大賞」審査結果

(別紙2) 第 45 回「緑の都市賞」審査結果

(別紙3) 第 24 回「緑化技術コンクール」審査結果

2. 2027 年国際園芸博覧会に向けた特別企画の実施について

2027 年に横浜市で開催される 2027 年国際園芸博覧会(以下「GREEN×EXPO 2027」)に向けて、2026 年度の第 37 回「緑の環境プラン大賞」において特別企画を実施します。GREEN×EXPO 2027 が開催される 2027 年は、第一生命の創立 125 周年にもあたることから、シンボル・ガーデン部門「第一生命賞」の特別企画として、GREEN×EXPO 2027 の会場内を対象地とした「生命のにわ」を表現する『The Garden of Life』をテーマに緑化プランの募集を実施します。(別紙 4)

第 36 回 緑の環境プラン大賞 審査結果

全国から、シンボル・ガーデン部門 21 点、ポケット・ガーデン部門 27 点、計 48 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。

■シンボル・ガーデン部門(助成額上限:1,000 万円/点)

緑の持つヒートアイランド緩和効果、生物多様性保全効果等を取り入れることにより人と自然が共生する都市環境の形成、およびコミュニティの活性化に寄与するアイデアを盛り込んだ地域のシンボリックな緑地プラン

■ポケット・ガーデン部門(助成額上限:150 万円/点)

日常的な花や緑の活動を通して、地域コミュニティの活性化や、保育園・幼稚園、学校、福祉施設等での情操教育、身近な環境の改善等に寄与するアイデアを盛り込んだプラン

◎国土交通大臣賞 <2 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	遊びを通して子育て、樹育で「森の入口」プロジェクト (東京都渋谷区)	一般社団法人 渋谷の遊び場を 考える会	恵比寿南一公園内のプレーパークを対象に、シンボルツリーや葉・実で遊べる樹木を植栽し、緑陰環境を創出するプラン。酷暑の中でも子どもたちが健康かつ安全に遊べる環境づくりを目指している点、渋谷という立地特性から緑化の普及啓発効果が期待できる点等が評価された。	
ポケット・ガーデン	地域の縁側 ～暮らしの井戸端 プロジェクト～ (宮城県仙台市)	株式会社 未来企画	福祉複合施設の中庭に、井戸(非常時災害用認定)や縁側、ビオトープを中心とした空間を創出し、多世代交流の場を作るプラン。施設の中心に位置した井戸端空間では、縁側に自然と人が集い、井戸では手押しポンプによる水汲み体験、湧水・雨水を活用したビオトープは子どもたちの環境教育の場となる点が評価された。	

◎都市緑化機構賞 <1 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	鵜崎コモンズ みんなの庭 (兵庫県淡路市)	鵜崎コモンズ	住宅街で放置されていた未利用地を、地域住民の発意で 2023 年からコミュニティガーデンとして整備し、マルシェや「まちなかオペラ」等の交流の場として活用している。本プランは、この庭をさらに充実させ、持続可能なまちづくりの拠点とするプラン。地域住民の主体性やこれまでの取り組み実績等が評価された。	

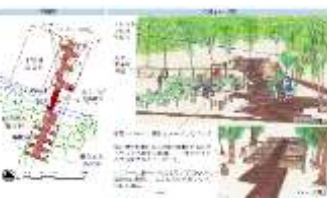
◎第一生命賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
シンボル・ガーデン	「結びの丘」 ～地域と未来を結ぶ 桜の名所～ (宮城県仙台市)	七北田公園 活性化協議会 7DAYS,Peace.	七北田公園活性化協議会 7DAYS.Peace は、公園の賑わい創出と景観改善に取り組んでいる。本プランはサクラの植栽やローメンテナンスな花壇づくり等により、園内の低利用地の魅力向上を図るもの。世代間交流を生み、公園のシンボル性を高めている点、維持管理計画が具体的で実現可能性が高い点等が評価された。	

◎第一生命財団賞 <1点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	Bless Garden (ブレス・ガーデン) ～おかえりと、 ひと息と～ (岩手県下閉伊郡 山田町)	一般社団法人 BlessU	震災復興の課題として残った心や絆の復興に取り組むため、シングルマザーを中心に多世代が関わる「参加型ガーデン」を作るプラン。防潮堤に囲まれた無機質な景観に、季節ごとの草花や樹木を取り入れることで、彩りとやわらかさを創出し、「誰もが居ていい場所」を目指している。また、自然とふれあう体験を通じて、ひとり親家庭の子どもの成長を地域で支える点も評価された。	

◎コミュニティ大賞 <8点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
ポケット・ガーデン	「ゆりあげ・浜辺の花壇」 (宮城県名取市)	ゆりりん愛護会	震災の記憶と地域の自然を未来へつなぐため、海浜植物の海砂花壇を整備するプラン。地域の自然環境保全に根ざした地域固有の海浜植物に特化した質の高い緑化を通じて、子どもたちの自然を愛する心の醸成と、高齢者の心のケアにも寄与する点が評価された。	
	春夏秋冬 素材のやま庭 (茨城県石岡市)	一般社団法人 やさび	にほんの里 100 選の里山に棚田や雑木林を整備し、資材採取・自然観察・地域交流の場として再生するプラン。耕作放棄地の稲田・水路をビオトープに再生し、水生生物の居場所を確保する等の環境改善に加え、地域文化の継承と交流を促進する点が評価された。	
	地域の笑顔が広がる リサイクルファーム (埼玉県秩父市)	学校法人 弘道学園 秩父こども園	園敷地と隣接する里山を整備し、園児の環境教育や地域住民の交流を促進するプラン。里山に堆肥場や畑を整備し、園児に循環型農業を意識した自然と関わる「学びの場」を提供すると共に、地域住民との里山の活用と管理意識の向上を促す取組みが評価された。	

部門	作品名(場所)	受賞者名	概 要	
ポケット・ガーデン	電車で広がる 地域コミュニティ 「駅庭」 (京都府京都市)	嵐電沿線 協働緑化 プロジェクト	駅ホーム隣接のスペースを「駅庭」として整備し、育てた苗を電車で他駅に運び育て、さらにプロジェクトの発展を目指すプラン。地域住民と連携した苗の育成やオリジナルプランターの導入、沿線に広げる循環型の取組みなど、駅の新たな価値を創出している点が評価された。	
	兵庫県姫路市 『安富町花あじさい 復活プロジェクト』 (兵庫県姫路市)	姫路市立 安富中学校	学校・PTA・地域・企業・行政が共創し、町花「あじさい」を復活させ、学習・交流拠点を創出するプラン。生徒が主体となり「あじさいの丘」等を整備し、あじさい文化継承の拠点とする点や、海洋残渣を活用したサーキュラーエコノミーの仕組み構築等が評価された。	
	あいあいの杜 広場 (岡山県瀬戸内市)	特定非営利 活動法人 あいあいの杜	園庭の緑化と隣接する山の整備で地域の癒しの場を創出するプラン。草花や野菜の栽培による自然との触れ合いを通じて、命を育む体験の場を作るとともにヒートアイランド現象の軽減にも寄与。園庭を開放し、地域住民の交流の場を目指している点も評価された。	
	「街中で集える憩いの 木漏れ日スポット」 (大分県大分市)	社会福祉法人 新樹会 南春日こども園	園庭を緑化し、併設するカフェを通じて誰もが集えるコミュニティスポットを創出するプラン。植栽により「実のなる木かげ」など役割のあるコーナーを設け、自然体験を通じた学びの場を提供。また、地域住民に園庭を開放し、コミュニティ活性化につなげる点も評価された。	
	空き地再生！ 安らぎとふれあいの ビオトープガーデン (大分県大分市)	宗教法人教尊寺	境内にある空き地を再生し、地域住民や園児に憩いと学びの場を提供するプラン。砕石地の土壌改良と在来種の植栽で生物多様性を育むビオトープガーデンを創出。準絶滅危惧種の生息環境回復にも寄与するガーデンを通じて世代間交流を促す取組みが評価された。	

第 45 回 緑の都市賞 審査結果

全国から、緑の市民協働部門 17 点、緑の事業活動部門 13 点、緑のまちづくり部門 2 点、計 32 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。(活動助成金:「緑の市民協働部門」のみ、5~20 万円)

◎内閣総理大臣賞<1 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概 要	
緑の事業活動	馬場川通りアーバンデザインプロジェクト (群馬県前橋市)	都市再生推進法人 (一社) 前橋デザイン ンミッション/株式 会社ランドスケープ プラス	中心市街地のまちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」に基づいて、地元有志の寄付金によって公共空間の民間整備と住民自治的管理を実現。かつて生糸で栄えた市街地に張り巡らされた水路を豊かな緑とともにまちの環境装置と捉え直し、ウォーカブルなまちとして再生した。	

◎国土交通大臣賞 <3 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概 要	
緑の市民協働	世界遺産・フィールドミュージアム 「おぎの美術館」 (奈良県奈良市)	奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科景観 デザイン学研究室/ 一般財団法人公園 財団飛鳥管理 センター	奈良女子大学と平城宮跡歴史公園の共同研究プロジェクト。学生主体で世界遺産・平城宮跡で「おぎ」を主題とした期間限定の自然一体型屋外美術館を展開している。展示や近隣教育機関への出前授業、校外学習を通じ、公園の自然環境・潜在的魅力の発信と、外来種の侵略により衰退している「おぎ」群落の保全という2つの課題解決を目指している。	
緑の事業活動	中外ライフ サイエンスパーク 横浜 (神奈川県横浜市)	中外製薬 株式会社	地域社会との自然の調和、環境との共存を目指して建設され、在来種等を主体に緑地を創出し、周辺環境との生態系ネットワークを構築することを目的としている。西側の長さ約 300m の緑地帯には、地域に開放された遊歩道を設け、地域住民の散歩や休息、NPO 法人の環境教育イベントに利用されている。またレインガーデンの整備など地域アメニティ向上に貢献している。	
緑の事業活動	「堺自然ふれあいの森」が取り組む 大阪府堺市の南部 丘陵における拠点 施設の構築 (大阪府堺市)	ふれあいの森 パートナーズ	約 20 年にわたり産官学民連携による保全型の公園として『市民協働での里山保全』や『体験型の自然学習の実践』に取り組んでいる。特に近年では、地域企業や近隣の大学生などの新たな担い手の参画の仕組み作りなど、南部丘陵全体の先導モデルとして、里山と人との新たな関わり方を模索する社会実験の場を構築している。	

◎都市緑化機構会長賞 <3 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概 要	
緑の市民協働	あいな里山公園 における市民活動 (兵庫県神戸市)	あいな里山 参画団体運営 協議会	2010 年から国営明石海峡公園神戸地区あいな里山公園にて、15 のボランティア団体が自律的に維持管理をしつつ、人と自然との新たな共生の場として多様な活動を展開するとともに、茅刈り・茅葺き体験や田植えなど、里山に親しむイベントを実施している。	
緑の事業活動	Edible KAYABAEN (東京都中央区)	平和不動産 株式会社	2022 年に東京証券会館屋上に整備された、約 200 種の食べられる植物を育てる都市型菜園。教育や交流、環境保全の拠点として、多世代・多主体の共創を促し、都市の緑の再構築と循環型社会への貢献を目指している。	
緑のまちづくり	田辺公園を活用 した障がいのある 人の自立支援 について (京都府京田辺市)	京都府京田辺市/ 東レ建設グループ(東レ建設株式会社・ 京阪園芸株式会社・ 東洋コミュニティ サービス株式会社)/ 一般社団法人京田辺 みんなの働く プロジェクト	Park-PFI で整備した公園の管理・運営に障がいのある人が関わることで、社会的自立に向けた就労訓練・支援の場として活用している。6 つの福祉事業所で設立された法人が指定管理者と連携し、公園内の業務をコーディネートしている。	

◎第一生命財団賞 <1 点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概 要	
緑の市民協働	大濠公園 ガーデニング クラブ花壇づくり (福岡県福岡市)	大濠公園 ガーデニングクラブ	2005 年から 20 年間「自然に限りなく近い花壇づくり」を理念に活動を続けている。多年草を中心に整備された花壇は、観光客や市民に癒しと学びの場を提供し、地域住民や企業との協働による花壇づくりは、都市の中で自然と人がつながる空間を創出し、公園の象徴となる存在に成長している。	

◎奨励賞 <4点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑の市民協働	北潟湖畔ガーデン 体験と交流が生まれる クロステラス (福井県あわら市)	特定非営利 活動法人 awarart	浸水によって荒地となっていた場所 で、2011 年から地域住民とともに 除草作業や植栽に取り組んできた。 旅館などを含む多様な分野・世代・ 地域の方が集まり、自然体験活動 やまちかどのコミュニティ景観 づくり活動などに取り組んでいる。	
緑の市民協働	安全で安心して住める まち「花とみどりの 夢広場」づくり (広島県呉市)	大道田まちづくり 支援の会	豪雨災害による被害を機に、隣接 する山林の治山ダム、その周辺の 整備・修復を行い、防災・減災への 意識向上を図る住民憩いの場とし て広場を整備した。保育園、小中 学校と連携し、多世代交流できる 地域の憩いの広場として活用され ている。	
緑の事業活動	安部幼稚園における 緑地の活用と保全 (神奈川県横浜市)	学校法人 安部幼稚園	創業者が私財を投じて確保した約 1ha の緑地「あべの森」は、周辺で 急速な宅地化が進んでいるなか幼 児教育に欠かせない貴重な森の中 の園庭となっている。園庭を開 放し住民にとっても貴重な自然とな っている。	
緑の事業活動	川崎市麻生区早野 梅ヶ谷特別緑地保全 地区の保全活動 (神奈川県川崎市)	東京農業大学 地域環境科学部	2010 年より川崎市と連携し調査研 究を行い、15 年に亘り管理作業を 継続し、林床植生の種多様性の増 加や希少植物の保全に貢献してい る。未就学児や小学生を対象とし た環境教育の実施や、大学生の演 習・実習の野外フィールドとしての 活用も展開している。	

第 24 回 緑化技術コンクール 審査結果

全国から緑化施設部門 17 点、特定テーマ部門 6 点、計 23 点の応募があり、次の団体の受賞を決定しました。

◎国土交通大臣賞 <2点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑化施設	赤坂グリーン クロス (東京都港区)	積水ハウス株式会社/日本生命保険相互会社/株式会社日建設計/大林・銭高・岩田地崎建設共同企業体/箱根植木株式会社/株式会社日比谷アメニス	本施設は、駅まち一体開発と総合設計制度を活用し、公開空地「森のゲート」、輻射熱抑制と多様な植栽構成の壁面緑化を有する緑化施設。高さ 150m まで連続する超高層ビルの壁面緑化ファサードと、意匠・構造・設備と融合した都市環境に貢献する高度な緑化技術が高く評価された。	 ©Miyuki Kaneko / Nacása & Partners Inc
緑化施設	2025年 日本国際博覧会 大屋根リング (大阪府大阪市)	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会/藤本壮介/株式会社E-DESIGN/株式会社東畑建築事務所/株式会社梓設計/株式会社大林組/清水建設株式会社/株式会社竹中工務店/大和リース株式会社	本施設は、世界最大の木造建築物の上部に、会場を展望できる回遊路と「季節の時計」をコンセプトとした 34,000 m ² の屋上庭園を有する緑化施設。緑化を成立させるため薄層の基盤システム、四季の彩を表現する在来種植栽と維持管理等、都市施設に有効な技術の実装化が高く評価された。	

◎環境大臣賞 <2点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑化施設	HARUMI FLAG (東京都中央区)	鳳コンサルタント株式会社/三井不動産レジデンシャル株式会社/三菱地所レジデンス株式会社/野村不動産株式会社/住友不動産株式会社/住友商事株式会社/東急不動産株式会社/東京建物株式会社/NTT都市開発株式会社/日鉄興和不動産株式会社/大和ハウス工業株式会社/三井不動産株式会社/株式会社日建設計/株式会社日本設計/株式会社三菱地所設計/東急建設株式会社/株式会社長谷工コーポレーション/前田建設工業株式会社/三井住友建設株式会社/住友林業緑化株式会社/イビデングリーンテック株式会社/株式会社石勝エクステリア/東武緑地株式会社	本施設は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後、「海に浮かぶ緑の環境都市」「魅力的な都市空間の創出」をテーマに再整備された緑化施設。生物多様性に配慮した植栽計画、水景の水質維持とメンテナンス費の低減を実現したハイブリット水景・灌水システムが高く評価された。	
緑化施設	石神井公園駅～ 大泉学園駅間の 高架下広場 (東京都練馬区)	西武鉄道株式会社/株式会社西武不動産/西武緑化管理株式会社/株式会社武田清明建築設計事務所/ACID NATURE 乙庭	本施設は、鉄道高架下で光・風・水の資源を活用して、創出された緑化施設。高架での雨水循環利用へのチャレンジと、確立された緑化技術・工法の採用、夏の高温化が進む中、鉄道高架下という特殊な空間のメリットに着目し、イベントなどの地域の活動空間に位置づけた点が高く評価された。	 ©hamada masaki

◎日本経済新聞社賞 <2点>

部門	作品名(場所)	受賞者名	概要	
緑化施設	竹中育英会 学生寮 (東京都練馬区)	株式会社竹中工務店/ 公益財団法人竹中 育英会	本施設は、生態系に配慮した植栽計画とグリーンインフラを実装した緑化施設。近隣の公園で発生した剪定枝を利用したバイオネストづくりと寮生による自主的な花壇管理等、環境意識の醸成を目的とした資源循環と参加型維持管理が企業による高等教育における貢献のあり方として評価された。	 ©鈴木文人
緑化施設	虎ノ門ヒルズ ステーション タワー・ガラス ロック・江戸見坂 テラス (東京都港区)	森ビル株式会社/株式 会社久米設計/株式会 社タウンスケープ研究所/ 株式会社グリーン・ ワイズ/鹿島建設株式 会社/イビデン・グリー ンテック株式会社/株式 会社日比谷アメニス	本施設は、赤坂・虎ノ門緑道に面し、エリア全体の回遊性の向上と賑わいを創出する緑化施設。建物デッキや壁面、斜面地、室内、上層階など多様で大規模な緑化により、緑のネットワークを構築している。地下支柱や人工土壌、灌水システム等高い緑化技術と巧みなデザイン性が評価された。	

◎都市緑化機構会長賞<2点>

部門	作品名 (場所/製品・技術)	受賞者名	概要	
緑化施設	聖蹟桜ヶ丘北 地区既存堤防の 護岸に資する 超緩勾配盛土 整備と緑地の創出 (東京都多摩市)	東京建物株式会社/株式 会社東栄住宅/京王電鉄 株式会社/伊藤忠都市 開発株式会社/三井住友 建設株式会社/光井純 アンドアソシエーツ建築 設計事務所株式会社	本施設は、豊かな自然が分断され、駅と川を繋ぐ回遊性の低さを解決した緑化施設。堤防護岸も兼ねた超緩勾配盛土を民間事業者が行った珍しい事例であり、植物生育に適した環境の実現、地域に根差した生物多様性の向上、多摩川の自然環境を活かしたイベント実施等、地域への貢献度が評価された。	
特定テーマ	おうち植物園	手づくり建築工作舎	本技術は、エンドユーザーの植物選定を助ける緑化技術。建築分野の光環境解析を活用し、植木鉢の色でその植物に必要な光の量が直感的にわかり、置きたい場所に適した植物が選定可能となる。屋内緑化について、市民レベルで緑化の楽しさを伝える仕組みとして優れていると評価された。	

◎2027年国際園芸博覧会協会特別賞<1点>

部門	作品名(製品・技術)	受賞者名	概要	
特定テーマ	T-バイオフィリック グリーン®	大成建設株式会社	本技術は、四季の変化をとり入れた、自然な外観を有する緑化技術。プランターは強度と耐久性に優れたステンレスを採用、土壌はアクリル系樹脂で固化させた。屋内で生育可能な在来種と踏圧に耐える土壌を組み合わせることで、屋内緑化における多様性確保する将来性のある製品として評価された。	

第37回 緑の環境プラン大賞

都市の緑3表彰

GREEN×EXPO2027開催特別企画 『The Garden of Life』

2027年（令和9年）に開催される『GREEN×EXPO2027（2027年国際園芸博覧会）』会場において、『The Garden of Life』をテーマに、生命のにわを表現する作品を募集します。2027年は第一生命の創立125周年にあたることから、例年実施しているシンボル・ガーデン部門「第一生命賞」の特別企画として、本募集を実施します。

募集プランの対象地

今回募集するプランの対象地は、横浜市の旭区・瀬谷区に跨る約242haの広大な敷地の博覧会会場の正面エントランスから各ゾーンへと導かれる主要な動線上に位置し、大きな期待を抱いて訪れる世界各国からのEXPO来場者に対し、最初の感動を届ける大きな役割を担う空間（幹線園路の両側を合わせた約250m≪長さ約90m×幅約2.5～3m≫）となります。



プランのテーマ

募集のテーマは、『The Garden of Life』です。

第一生命は、2027年に創立125周年を迎えます。

私たちはこれまで、「一生涯のパートナー」として多くの人々の人生に寄り添い、一人ひとりの幸せを支える存在でありたいと願い続けてきました。

そして、これからも共に歩み、未来をひらく存在として、多様な幸せと希望に満ちた、サステナブルな社会の実現を目指してまいります。

『The Garden of Life』

それは、生命の営みだけでなく、人生や日々の暮らしといった広い意味での“Life”を育む緑の空間です。人は緑に守られながら、生命を育み、つないできました。

緑は、私たちのかけがえのないパートナーです。植物が生き生きと芽吹き生長する、生命の輝きを感じられるガーデンを、多くの人々がつながり共に創り上げていく。

そこから生まれる、新たな可能性と幸せに満ちた美しい風景をご提案ください。

応募にあたっての4つのポイント

① 多様な主体が協力しあう共創によるガーデンづくり

申請者は、市民、企業・団体、学校などを含みプロフェッショナルやアマチュアを問わず、デザイン、制作、維持管理など各プロセスを分担するなど、できる限り多くの人々が協力・協働できる応募形式を推奨します。

② 多くの来場者が訪れる、非常に好立地な場所での作品空間

展示エリアは、メインガーデンの入口から端まで約90メートルにわたる園路の両側を飾るものであり、博覧会来場者の期待と高揚感をより一層高めるのに適した場所であるといえます。

③ 展示期間は2027年3月から9月までの約6カ月間

制作されたガーデンは、博覧会の開催期間は約6ヶ月間にわたるため、良好な状態を維持するための補植や植替えなどのメンテナンスの方針と計画をお示しいただく必要があります。（博覧会が終了した後は、展示も終了となります）

④ 受賞したプランには、上限2,500万円を支給

支給金額には、プランを実現するための植栽費や資材費、制作費、その後の維持管理費（水遣りなどの日常管理を除く）、撤去費用が含まれます。

審査のポイント

【**テーマの表現力**】テーマに対する独自の創意工夫が施された魅力的プランであるか。

【**造園技術の高さ**】対象エリアにおける優れたデザインになっているか。制作・施工や維持管理における造園技術の高さを示す実績があるか。

【**環境への寄与**】緑の環境プラン大賞の募集趣旨や GREEN×EXPO2027 開催理念に掲げる環境の保全・再生に寄与するプランであるか。

【**維持管理**】展示期間中の維持管理の体制、方法が明確になっているか。

【**プレゼンテーション**】世界の GREEN EXPO のメインアプローチにふさわしい意欲やプランに対する情熱が感じられるか。

応募にあたって

- 市民、企業・団体、学校などを含むプロ・アマ、国籍を問いません。ガーデニングや造園に限らず、芸術、文学、空間デザインなど幅広い分野からの応募を募ります。
- デザインから制作・施工、博覧会開催期間中（6カ月間）の維持管理まで、自ら実施できる体制での応募をお願いします。
- 応募できるプランは、1応募者につき1作品までとします。

募集説明&交流セミナーの開催（予定）

特別企画『The Garden of Life』の募集の趣旨や応募条件をわかりやすく説明するとともに、どのような作品が望ましいかについて参加者同士が意見を交わし、アイデアを育てる場として開催します。

多様な視点からテーマに沿った魅力的なプランが生まれることを期待し、フリーディスカッション等を通じて、より具体的で実現性のある提案につなげます。

日時:2026年 2月12日(木) 場所:第一生命 日比谷本店(第一生命日比谷ファースト)

具体的なセミナーの申込方法、内容の詳細は12月上旬に都市緑化機構のホームページ(<https://urbangreen.or.jp/>)に掲載予定です。

スケジュール（予定）

